



愛がすべてを 変えてくれたら いいのに

「女になりたい男」と、彼と生きることを決意する女。
人生でたった一度きりの“スペシャル”な愛の物語

わたしは ロランス

2012年カンヌ国際映画祭
ある視点部門正式出品
主演女優賞・クイアパルム賞受賞



監督：グザヴィエ・ドラン

出演：メルヴィル・ブポー（フランク・オゾン『ぼくを撃て』）、スザンヌ・クレマン、ナタリー・パイ（フランク・トリュフォー『アメリカの夜』）
（2012年 / 168分 / カナダ＝フランス / 1.33:1 / カラー / 原題：Laurence Anyways）



現在24歳。既にカンヌの常連にして、
 ガス・ヴァン・サント (『エレファント』) を虜にした才能の持ち主、
 グザヴィエ・ドランと、実力派俳優たちによる、
 心揺さぶる衝撃作。

圧倒的なビジュアルセンスとストーリーテリングで注目を集める監督、グザヴィエ・ドラン。弱冠24歳にして、これまでに制作した3作品が全てカンヌ国際映画祭に出品され、その非凡な才能に世界が驚愕。ドランの才能に惚れ込み、6月の全米公開のプロデューサーを務めるガス・ヴァン・サントは、「彼の作品の大ファンとして、『わたしはロランス』に関わることができて光栄だ。これは、彼が今最も有望なフィルムメーカーの一人であることを証明する、素晴らしい映画だよ!」とコメントしている。

「女になりたい男」ロランス役を『ぼくを弾ける』(フランソワ・オゾン監督)「ブローケン・イングリッシュ」(ゾーイ・カサヴェテス監督)のメルヴィル・ブポー、ロランスの母役を『アメリカの夜』(フランソワ・トリュフォー監督)『勝手に逃げる/人生』(ジャン＝リュック・ゴダール監督)のナタリー・バイ、ロランスの恋人フレッドを、ドラン監督の処女作『マイ・マザー/青春の傷口』にも出演したスザンヌ・クレマンが演じ、2012年カンヌ国際映画祭ある視点部門で最優秀女優賞を受賞した。



彼は、女になりたかった。彼は、彼女を愛したかった。
 どこにも行けない“愛”に果敢に挑戦するふたりの、
 とても“スペシャル”なラブストーリー。

モントリオール在住の国語教師ロランスは、恋人のフレッドに「これまでの自分は偽りだった。女になりたい」と打ち明ける。それを聞いたフレッドは、ロランスを激しく非難するも、彼の最大の理解者であろうと決意する。あらゆる反対を押し切り、自分たちの迷いさえもふり切って、周囲の偏見や社会の拒否反応の中で、ふたりはお互いにとっての“スペシャル”であり続けることができるのか…? 10年にわたる、強く美しく切ない愛を描いたラブ・ストーリー。

監督:グザヴィエ・ドラン

1989年、カナダ生まれ。現在24歳、6才で子役としてデビュー。18歳で処女作『マイ・マザー/青春の傷口』、19歳で『Heart beats』を制作。本作を含む3作品が全てカンヌ国際映画祭に出品されるという快挙を成し遂げた。また、ガス・ヴァン・サントはドランの才能に惚れ込み、『わたしはロランス』本年6月のアメリカ公開時のプレゼンターを務めている。

2013年9月、公開

JR 新宿駅東南口GAP並びNOWA ビルB1F
 03-3352-5645
<http://qualite.musashino-k.jp/>
 全席指定/入替制

新宿シネマカリテ

